

〔令和 8 年度 後期始業式 校長式辞〕

皆さん、おはようございます。

今日の後期始業式では、「時間」というものを考えるために、高校野球に関する二つの話をします。一つは、この夏の山形県大会で私自身が経験したこと。もう一つは、甲子園本大会の閉会式で、高野連会長が話されたことについてです。

本校野球部は、あと一步のところまで勝ち進みましたが、残念ながら甲子園への扉を開くことはできませんでした。その予選が繰り広げられる中で、私はとても印象に残る出来事に遭遇しました。そこで感じたことを山形新聞に投書したところ、8月7日の「やましんサロン」という投書コーナーに掲載していただきました。

題は「色あせず 心に残る喜び」です。少し長くなりますが、その全文を読んでもみます。

---

夏の甲子園予選の3回戦。大きな声援が響くスタンドで応援していると、「その座り方を見て、先生じゃないかと思って」と、教え子2人がわざわざ応援席まで来てくれた。

どこか見覚えのある1人に、「最後に会ったのは、いつだったっけ？」と尋ねると、「秋田ですよ」と一言。話をしているうちに、少しずつ記憶がよみがえってきた。

彼女はクラスでただ1人、秋田に進学した。

結婚式のため秋田を訪れた際、式が始まるまでのひととき、ホテルのラウンジで冷たい飲み物を口にしながら、作業療法士を目指して勉強に励んでいることや学生生活の様子を話してくれた。

その日以来の再会だった。あの頃の面影を残したまま、今では高校生を育てる母親になっていた。

人は日々、さまざまな出来事に会う。しかし、何が心に残り、何が忘れ去られていくのかを、自らの意志で決めているわけではない。

35年という歳月を経ても、あの日の出来事は私たち2人の心の中で色あせていなかった。そのことが、自校の勝利と同じくらいうれしかった。

夏の甲子園予選は終わった。球児たちにとって、最後の試合は終わりではない。そこで流した涙はやがて悔しさだけではなく、人生を支える力へと変わっていくことだろう。

教師という仕事もまた、卒業式で終わるものではない。教え子の心に残り続ける特別な仕事なのだ。

---

という文章です。

そして、この夏、もう一つ印象に残ったことがありました。甲子園本大会の閉会式での、高野連会長の講評です。

会長はまず、優勝した智辯和歌山高校の選手たちに、日本一の頂上から見えた景色を生涯忘れず、これからの人生を歩んでほしい、と語りました。

一方、準優勝となった健大高崎高校の選手たちには、あと一步のところと同じ景色を見ることができなかった、その悔しさは、これからの人生の礎になる、と語りかけました。

そして最後に、この大会が始まった100年余り前の話をされました。

当時の日本人の平均寿命は40歳前後で、16歳まで生き延びることができたのは、生まれた人の約半数だった、という話です。

調べてみると、「16歳まで生き延びることができたのは、生まれた人の約半数だった」というのは、どうも正確ではないようです。ただ、100年前の平均寿命が40歳そこそこで、今の約半分だったのは事実のようです。

このように平均寿命が短かったのは、乳幼児の死亡や感染症による死亡が非常に多かったことが、

大きな理由のようです。そして、会長は最後に、こう語りかけました。「皆さんは二つとない存在です。また今日という日は二度と巡ってきません。」

この夏、二つの高校野球の話から、私は改めて「時間」というものを考えました。

皆さんくらいの年齢では、時間というのは、これからの先にあるものだと思います。卒業したらどこに進むか。どんな仕事に就くのか。どんな人と出会うのか、など。

若いときは、これまでよりも、これから先の時間の方が圧倒的に長いため、振り返ることはあまりありません。ところが、歳を重ねると、少しずつ過ぎてきた時間を振り返るようになります。

昔の友人はどうしているだろう。かつて一緒に働いた人は元気だろうか。あの教え子は今、何をしているだろう。

若い頃には何気なかった出会いや、当たり前のように過ごしていた時間が、歳を重ねるにつれて、だんだん大切なものになってきます。

今年、本校は創立 100 周年を迎え、今月 22 日には記念式典が開催されます。

当時の生徒たちが、100 年後を生きる私たちの姿を想像できなかったのと同じように、私たちにも、100 年後の学びの姿はまったく見えません。

学校の歴史というのは、遠い未来のことなど思い描かず、一人ひとりが生きる「今」という時間の積み重ねなのかもしれません。ですから、純粋に創立 100 周年という節目の年に、ともにここにいることの喜びを感じたいものです。

今日から、今年度の後半が始まります。

3 年生は、未来の自分につながる大事な選択の場面が、これから次々にやってきます。もちろん、どの道を選ぶかは大切です。でも、その一つの選択が、皆さんの未来のすべてを決めてしまうわけではありません。

選択は、決着ではなく、通過点です。

大切なのは、将来を決めることではなく、今を精一杯生きながら、未来を作っていくことです。選択は、決着ではなく、通過点。

以上で、私の話を終わります。